

家庭菜園相談室

今月のテーマ

丹波黒大豆の枝豆に挑戦

お正月には欠かせない黒大豆ですが、今回は、枝豆で収穫する方法を紹介します。黒大豆の枝豆は、普通の枝豆とは違った香りとほくほくした食感を味わうことができます。収穫期が短いので、スーパーではあまり見かけることはありません。この枝豆を食べると、普通の枝豆が食べられなくなってしまうかも？



図1 作型目安

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
丹波黒大豆	▲	—	—	■	—	◆ ◆

▲ 播種 ■ 枝豆で収穫 ◆ 黒豆で収穫

栽培のポイント

- 種まきの時期は、丹波黒大粒大豆のタネの袋に、一般地：6月中旬～下旬、暖地：6月初旬～下旬と書いてありますが、丹波黒大豆は、晩生種なのでこの時期にタネを播くと大豆の茎と葉ばかりが育ちすぎて、実が付かない場合もあります。西美濃管内は、7月15日から20日がベストです。また、早生種の枝豆のタネを遅く播くと、茎が短いままで実が付きますが、食べられるような実には育ちませんので注意しましょう。
- 直接畑にタネを播くときは、鳥にタネを食べられないよう必ずネットなどをかけるようにしましょう。
- 豆類は肥料が多すぎると茎や葉が育ちすぎ、花の数が減ってサヤ付きが悪くなるので注意してください。

畑の準備：植付けの2～3週間前に完熟堆肥2^{kg}/m²、苦土石灰100^g/m²をまき、深さ20^{cm}位までよく耕します。

植付けの1週間前には化成肥料(8-8-8)50^g/m²を施します。

栽植密度：1条播きの場合は、畝幅70～80^{cm}、株間40～50^{cm}、畝高10～15^{cm}

2条播きの場合は、畝幅150^{cm}、株間50^{cm}、畝高10～15^{cm}。

種まき：1つの植穴に2～3粒播きます。

三角クワ等で播き溝(深さ2^{cm}位)を付け、40～50^{cm}間隔でタネを置き、薄く土を被せた後、たっぷり水をかけます。

水やり：黒大豆は生育段階によって水やりのタイミングが変わります。栽培はじめの頃は湿気に弱いので、乾燥気味に管理します。一方、花が咲いてからは水が足りないとサヤができにくくなります。土の表面が乾いたら水やりをしましょう。

追肥：花が咲き始めたタイミングで、化成肥料(8-8-8)30～50^g/m²追肥します。なお、堆肥が十分入っているなら基本的に追肥は不要です。

土寄せ：苗が生育途中で倒れるのを防ぐためや、根の発達を促すためと除草を兼ねて株元へ土寄せをします。土の表面を軽く耕して(中耕)、土寄せをします。

摘心：本葉5～6枚で摘心(苗の先端(新芽)を摘み取る)すると、側枝が出てサヤ数が増え、大粒に育ちやすくなります。

病虫害：水はけの悪いほ場では、土壌伝染性の立ち枯れ病が発生することがありますので、水やりも大切ですが水はけを良くしましょう。害虫は、アブラムシやカメムシ・ヨトウムシ、幼虫がさやの中の豆を食べるシロイチモジマダラメイガが良く発生します。アディオン乳剤やスミチオン乳剤で防除しましょう。

収穫：黒大豆の枝豆での収穫時期は、10月中旬になります。サヤに触れ外から豆がぷっくりしているのを確認して、甘みが増す頃(1週間～10日程度)を逃さないようにしましょう。

枝豆として収穫しないでそのまま枯れるまで放置しておけば、11月下旬頃に黒豆として収穫ができます。茎が黄色に変わり、サヤが良く乾いて褐色になったら、茎ごと引き抜くか刈り取り、そのまま逆さにするか吊すなどして乾燥させ、黒豆を取り出し、来年用のおせち料理に使しましょう。